

事業 優先順位		2 細事業:認知症高齢者支援事業					整理 番号		03				
目的		認知症になってもいつまでも河内長野市で暮らしていくことができるように、認知症の人や家族を支援するための仕組みを作る											
目標		認知症サポーター養成講座の開催、認知症コーディネーターの充実											
事業 実施主体		直営	事業開始 年 度	平成19年度	根拠 法令	介護保険法							
事業費・財源	財源内訳			平成25年度	平成24年度	比 較	コスト情報・従事職員数			平成25年度	平成24年度	比 較	
		事業費（決算額）（千円）		333	756	-423		総コスト（千円）		5,289	2,343	2,946	
		一般財源		139	288	-149		内 訳	事業費		333	756	-423
		国府支出金		194	468	-274			人件費		4,956	1,587	3,369
		地方債		0	0	0			公債費		0	0	0
		その他特定財源		0	0	0		一人あたり（円）		47	21	26	
				0				世帯あたり（円）		112	50	62	
				0				参 考	職員数（人）		0.65	0.20	0.45
				0					再任用職員数（人）		0.00	0.00	0.00
		今後の方向性		認知症について広く市民に啓発し、認知症本人と家族をやさしく見守るまちづくりを進める。									
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民								
	A	A	B										

認知症キッズサポーター養成講座


認知症高齢者徘徊 SOS
ネットワーク模擬訓練


細事業：認知症高齢者支援事業

1. 認知症高齢者支援事業

認知症になってもいつまでも住み慣れた河内長野市で暮らしていくことができるように、認知症の人や家族を支援する仕組みづくりを進めた。

(1) 認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解してもらい、認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくりを実現するため、認知症サポーター※養成講座を15回開催し459人が参加した。また、子どものうちから認知症について理解してもらい、偏見をなくすことを目的に、小学校3年生～6年生を対象に認知症キッズサポーター養成講座を1回開催し、小学生20人が参加した。

※認知症サポーター

国の認知症キャンペーンの一環で養成しており、認知症のことを正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守り支援する人。

オレンジリングは認知症サポーターのしるし



(2) 認知症フォーラム

認知症について広く啓発することを目的に、平成25年12月15日、キックスイメントホールで「いつまでもこころ豊かにこのまちで」をテーマに認知症フォーラムを開催し、220人が参加した。

内容 【第1部】

- ・講演会「認知症と平穏死」

講師 長尾クリニック

院長 長尾 和宏氏

【第2部】

- ・トークセッション

(コーディネーター) 河内長野市生涯学習アドバイザー 嶋田崇彦氏

(パネリスト) ケア南海株式会社訪問看護ステーション 中山マキ子氏

グループホームらん

山戸江利香氏

認知症を抱える河内長野家族の会

富岡廣志氏

(3) 認知症コーディネーター事業

認知症の理解を深めて、認知症の人に対してやさしい街づくりをするために、認知症の専門的な研修を受けた専門職がコーディネーターとして研修等を企画し実施した。

認知症コーディネーター数 27人

(活動) 1) 定例会議 月に1回

2) 専門職研修の企画・開催

- ① 平成25年8月25日 「認知症のある人とのコミュニケーションで大切なこと」

講師 認知症介護コーチ ベ ホス 氏 参加者数 65名

- ② 平成26年2月18日 「前頭側頭型認知症について」

講師 大阪府認知症疾患医療センター大阪さやま病院

院長 阪本 栄 氏

参加者数 98名

3) 認知症高齢者徘徊SOSネットワーク模擬訓練(介護保険事業者のみ)

サニータウンで、専門職がそれぞれ認知症の人、家族、地域の人になり、認知症の人が外出して自宅に戻ってこないという設定でネットワークを利用して模擬訓練を行った。

(4) 「介護マーク」を作成し、希望者に配付した。